

卒業おめでとう!

～先生方からメッセージ～



3-1



編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
PTA 広報委員会



随処作主

校長 菊地 英明

八幡浜高校の努力目標である「随処作主」は「随処に主と作す」と読みます。

この言葉は、臨済宗の開祖である臨済禅師の教えの中の一説です。自分に与

えられた役割や仕事に誠実に、一生懸命取り組むことにより、自分自身が生きがいを感じられるだけでなく、社会にも貢献することができるとい意味です。今後の人生でもその時々それぞれ立場でなすべきことがあります。「随処作主」実践あれ!



3-2



卒業おめでとうございます。

事務長 松岡 英次

これから進学する人、就職する人と皆それぞれ、これからの未来に向かって歩いて行きます。これから多くの人に出会い、楽しいことや悲しいことなど様々な経験をしたいと思います。もし一人で悩んで辛いことがあれば、高校時代の仲間のことを思い出してみてください。きっとあなたの心の支えになるはずです。



3-3



三学年主任 北岡 毅司
艱難辛苦汝を玉にす

一年時の三月は三日までしか記録がない。二年になっても、四月二十日から五月十日までは記録なし。五月十一日から月末までは午前中がクラス半分、午後が残り半分という分散登校だった。
八幡浜高校では久々の海外修学旅行も変更を余儀なくされ、国内コースも合わせて合計五回のコース・期日変更の後に中止になった。二年時の県総体はなくなり、高



3-4



3-5

校野球も遠足も中止。体育祭や文化祭は実施されたものの、規模を縮小してのものだった。
「艱難辛苦汝を玉にす(かんなんしんくなんじをたまにす)」という言葉がある。人は多くの苦労を経験することによって大きく立派な人物に成長するという。君達は、この半世紀のうちで、ともすれば退屈に感じてしまう、「普通の日常のありがたさ」を最も感じ取ることのできる高校生だと思う。この八幡浜高校で過ごした三年間は、光り輝いてはいないかもしれないが、今後の君達の人生を素晴らしいものにしてくれるために、きつと君達を「玉」のように素晴らしいものに磨き上げた、と信じてたい。
卒業おめでとう。生きていくことは楽しいことばかりではないが、小さな希望に大きな喜びを見いだせる感性を持って、自分の人生を切り拓いてほしい。

文化講演会

本校卒業生である野本周成氏、中野敦之氏をお招きし、「スポーツとは〜八幡浜から世界へ〜」をテーマに講演をしていたいただきました。野本さんは、現在愛媛県スポーツ専門員として活動されており、全校生徒の前で、ハードリングを披露していただきました。当時の顧問であった中野先生(現在、愛媛県競技スポーツ課指導主事)からも真摯に陸上競技に向き合う野本さんのお話を伺うことができました。



文化祭で思うこと

田中須美恵

九月末に、二年生の娘が学校から文書を持って帰りました。中には「令和三年度文化祭について」とあり、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、PTAによる焼きそば販売やフリーマーケットは実施しないという内容のものでした。私は納得する気持ちと、この状況がいつまで続くのかと残念な気持ちになりました。

八高を卒業した兄弟の時にはいずね館下の駐車場で、焼きそばの販売のお手伝いに参加し鍋奉行ならぬ焼きそば奉行らしき人がいて、その方の御指導のもと、楽しく八高文化祭の名物焼きそばを焼きました。前日のお手伝いの方が、材料の準備等をしていただいたお陰で、当日はスムーズに作業ができました。このような行事で保護者の輪ができ、家庭での子どもたちとの会話も広がっていくものだと思います。

文化祭当日、まずは体育館へ。ステージでは、ダンス部、吹奏楽部、コーラス部、日本文化部の生徒さんたちの発表がされていて、心癒やされました。
次に校内の催し場所へ。とりあえず娘のクラスへ行き十円を払って射的をし、的に当たると歳も忘れて、はしゃいでしまい、お菓子までもらって大喜びしてしまいました。
一通り校内を回り、中庭へ。生徒、保護者の方々がいて、久しぶりに会った人たちとおしゃべりができ、楽しい一日となりました。

来年度こそは、八高文化祭の名物焼きそばを皆さんに召し上がっていただけることを、心より祈っています。



文化祭

11月3日(水)





息子応援団長

ビジネス部
保護者 今泉絵梨加

一年生のとき、「部活はビジネス部に決めた」と言ったとき、まず私が聞いたのが、バスケットに未練はないのかということでした。中学時代はバスケットが大好きで、キャプテンとしてバスケットの毎日でした。それをスパッとやめるといこうとは、かなりの決意があったの



だと思えます。ビジネス部にした一番の決め手は、将来の役に立つということでした。確かに、今ではパソコンが使えるのは当たり前前の世の中。タイピングが速いということも有利なことです。しっかりと将来のビジョンを見据えているんだなと感心しました。

私は部長になったこともしばらく知らないという、家では口数の非常に少ない息子ですが、やることはきちんとする性格なので、特に心配することはありませんでした。日々タイピングの練習を重ね、最後の県大会では、団体二位という有終の美を飾ることができました。

運動部のように、大きな声で応援することはありませんが、心の中では「頑張れー」の大合唱。そしてこれからも息子を応援し続けます。

最後になりましたが、お世話になった先生方、部員の皆さん、本当にありがとうございました。



写真部に入部して

写真部
保護者 鎌田美奈子

彼女が映し出す世界は、優しさと驚きに満ちている。犬が笑うなんてデイズニー映画の中だけだと思っていた。しかし、彼女が撮ったうちの犬は満面の笑みでキラキラと輝いていた。

コロナ禍で行事や撮影会が中止になったが写真撮影が続けた。小さな姉妹の内緒話や夕日の岬。星が降る丘と幽かな光が漂う螢の草原。彼女と一緒に訪れた美しい世界は、私にとってもかけがえのない

すげえぜ、書道部!!

書道部
保護者 浅野 健一

思い出となった。目指していた写真甲子園の結果は残念だったが、写真部での活動はこれからの人生の大きな礎となってくれるはずだ。熱心にご指導いただいた先生方、ともに活動してくれた部員の皆様、本当にありがとうございました。



面にわたるご指導、温かな人間関係作りには、親子共々、感謝の念しかありません。本当にありがとうございました。娘たちは卒業しますが、これからもサマーフェスタには足を運ばせていただきます。

感謝を込めて

文芸・新聞部
保護者 田口 武文

小学生の頃から始めた書道を高校での部活動に選んだのは、それまでの彼女の取組から、自分としてもある程度の必然でした。案の定、三年間のその時間は充実していたようで、嫌な愚痴など一切聞かずに、素敵な選択だったと改めて思っています。

運動部のように大会や練習試合のある部ではないので、親としての関わりがほとんどありませんでしたが、サマーフェスタでの展示を観て、「みんなすげえな…」と感動し、陰ながらささやかな応援をしていました。

そういった技術の習得ももちろんありますが、先輩・同級生・後輩たち仲間と刻んだ貴重な時間は、何より代え難い財産となったと思います。そして、顧問の先生方の多

幼い頃から本好きだった息子が、文芸新聞部に入部し、どんな活動をするのか聞くと「字のまんま」と返してくれました。実際に小説などを創作し、文芸冊子『はなかげ』を文化祭で販売したり、県総体などを取材し、年五回程度校内新聞を発行したりしたようです。

一番の思い出を聞くと、高



校生直木賞の本選会に参加し、直木賞候補五作品から『推し』を選び、その作品への思いを全国の高校生とぶつけあったことのようにです。

コロナ禍で思うように活動ができなかったかもしれないが、文芸新聞部で学んだことは、これからの人生に役立つと思います。

ご指導いただいた先生方や一緒に頑張った部員の皆さん、三年間大変お世話になり、ありがとうございました。

将棋と皆様へ感謝

将棋部 清水 マミ
保護者

入学前から将棋に興味を持ち、未経験で入部しました。よい先輩に恵まれて、将棋好きは加速し、参考書の購入が



増え、本格的な姿勢から入りたいとプラスチックから木製の駒にしました。また、脚付きの大きな将棋盤を自分のお年玉で購入し、食事中も参考書を片手にして頭の中がいつも将棋でいっぱいだったことが思い出されます。コロナ禍で、実際に大会へ行き、応援する機会はありませんでしたが、参加した大会の結果を嬉しそくに、また悔しそくに話してくれていました。部長になると決まったとき、未経験からの活動なので少し不安でしたが、無事活動を終わることができました。役職を与えられたことで、自覚や責任が持て、成長させていただいたと思います。先生、部員の皆さんに協力していただき、充実した活動を送ることができました。本当にありがとうございました。

八高最響メンバーとして

吹奏楽部 藤本 敏恵
保護者



中学校に引き続き入部しましたが、外部レッスンを受けたり、自分たちでステージ演出を考えたりと、活動範囲がぐっと広がりました。練習も受け身だった中学生の頃と比べ、正規の部活時間の後も遅くまで練習していた姿に、娘の成長を感じたものでした。

コロナ禍を経験したからこそ、練習できることや発表の場が持てることにも感謝することができたのだと思います。仲間と練習に励み、苦楽を共にした吹奏楽部での三年間は、卒業後の新しい生活の中で、必ず大きな支えとなるはずで

ご指導いただいた濱邊先

生、最響メンバーとして共に過ごしてくださった先輩方、同学年や後輩の皆さん、本当にありがとうございました。

文化部頑張れ

日本文化部(茶道) 山崎 操
保護者

あつという間の三年間、高校生活は過ぎるのが早いとは思っていましたが、本当に早かった。二年になったら辞めると言っていた部活も結局三年間続けていました。

この三年間で何が残念だったかと娘に聞くと、「お茶会が一度しかできなかったこと」だそう、これはコロナの影響で仕方がなかったことはいえ、一年の文化祭の後、「来年はどんなお茶会にしようかなあ」といろいろ考えていた



だけに余計に残念だった模様。ただでさえ活躍の場が少ない文化部ですからね。とかく部活動といえば運動部のような風潮のある中、文化部にもっとスポットが当たり、活躍の場が広がり、人数も増え活気あふれる文化部になっていくことを切に願います。

出会いに感謝

美術部 三瀬みゆき
保護者

サマーフェスタや県展で美術部の作品を鑑賞するのが楽しみで、いつも家族で出かけます。題材選びの段階から娘が悩んだり迷ったりする姿を見ているので、出来上がった作品を観ると感慨深いです。展示場で顧問の井上先生にお会いしたとき、「部員が互いに刺激を受け、技術を高め合っている」というお話を聞かせていただきました。一人一人が作品に向かい、自己表現をしながらも、一体となって共に成長していく姿を思い浮かべ、頼もしく感じました。

感性豊かで向上心のある方々との出会いが、よい作品作りに繋がっているのではと思っています。

最後になりましたが、顧問の井上先生、いつもご指導いただきありがとうございます。

部員の皆さん、これからも八高美術部の作品を楽しみにしています。



さらなる飛躍を願って

商業研究部 保護者 二宮 史頼

高校時代、三年間打ち込んだ部活動、総体も終わり、最後の日、只々達成感が込み上げてきて、不覚にも涙したことを思い出しました。遠い昔の青春の思い出です。

さて、息子がお世話になりました商業研究部、一年目は県大会、四国大会、全国大会と連れて行ってもらい、販売フェリーや伊予灘ものがたりのお見送り、給食交流会、商品の試作品作りなど、いろいろと活動しておりました。新型コロナウイルス感染症の流行後は、感染症に配慮し



た活動になってしまい、二年目、三年目と自粛が続く、本当にやりたいことがやれていだろうか？悔いは残らないだろうか？達成感は何を得られるだろうか？正直、親としては複雑な心境でした。
コロナ禍で活動が制限される中で、出来ることを見つけて、チャレンジさせていたいただいた先生方、支えてくださった部員の皆さん、見守ってくださった保護者の方々、そして何より関わってくださった地元の企業や団体の皆様、心より感謝申し上げます。コロナ禍で不安もある中で、安全に満足できる活動ができたのは皆様のおかげです。早くコロナを気にせず活動できる世の中になり、商業研究部がさらに飛躍していく事を願っています。
三年間、本当にありがとうございました。

地域の魅力発信高校生サイクリング推進事業

令和二年度より推進校として指定され、サイクリングイベントや安全マナー講習会など様々な普及活動を行っています。今年度は、ボランティア活動や日本で初めて開催された自転車甲子園(愛媛県大会)に参加しました。



令和四年度全国高等学校総合体育大会地区推進委員会

令和四年度のインターハイが四国で行われます。南予地区においても、卓球競技が開催されるため、高校生推進委員会メンバーで大会開催に向けPRイベントや広報活動を行っています。



防災地理活動

未来のために今できること

—高校生が考える事前復興プラン—

二年 川縁 睦季・二宮 玲

令和三年十一月二十八日「全国高校生復興デザインコンペ2021」がオンラインで行われ、昨年度に引き続き参加しました。このコンペは、地域理解を下敷にした災害復興への備えについて高校生からアイデアを募集し、地域での実践活動へ接続させることを目的

としています。私達は県内外の高校とともに、八月より東京大学・愛媛大学から助言を受けながら「防災地理部」として探究活動を進めてきました。八高の復興コンセプトは「緒になる町」。「緒」の字は「つながり」「糸口」「命」の意味を持っています。今回、八高からは二本の復興デザインを提案し、高い評価をいただきました。宇和町明間地区チーム(優秀)は、平成三十年豪雨災害の当時を知る自主防災会や公民館への取材、現地調査を通じ、コミュニティラインの作成を軸とした

プランを発表。大雨行動訓練の実施による高齢者避難の実現化を訴えました。八幡浜市街地チーム(最優秀)は「おとなりさんから始まる防災」。回覧板の範囲で情報を結節する「ハブ」の存在を設定し、情報網の強化を図るプランです。隣人同士で作る避難経路図の作成、操作と情報内容を簡素化した高齢者向け機器の導入といった立体的な視点を評価していただきました。今回の受賞を励みに、今後も八高生だからこそできる活動を考え、地域での実践につなげていきたいです。

秋季県展県知事奨励賞

美術部 三年 三瀬 志乃

「花梨」は私の高校生活最後の作品でした。そのため、題材を決める段階からとても気合が入っていました。たくさん撮った写真の中から、祖父の家の畑の隅に捨てられていた花梨を描くことに決めました。本物に忠実に描きつつも、実際にはない色も配分して絵画独自の魅力を引き出せるように工夫しました。目を引く黄色をメインに、赤色や緑色を含んだ影で奥行きを表現しました。

小さい頃から絵を描くことが大好きで、美術部が活発に活動している学校に通いたいと思い、八幡浜高校を受験しました。入学した時の頃、部活動見学で初めて美術室に入った時、先輩方の作品の遠くからでもわかる精密な描写にとっても感動しました。ホームページに載っていた先輩方の作品を見た時より一層、憧れが強くなったことを覚えています。高校生になつて本格的な油彩に初めて触れ、自分に扱えることができるか不安でしたが、井上先生のご指導の下、なんとか三年間やりきることができました。

二年生の秋には、高文祭で受賞することができず悔しい思いをしました。同級生の部員の中で自分だけ結果を出せていないことに、芸術は賞を取ることだけがすべてではないと思いつつも、好きな気持ちを変わず、最後の秋季県展までやりきろうと決心し、制作に取掛かりました。洋画部門で県知事奨励賞という大きな賞をいただき、作品を新聞に掲載していただくことはとても嬉しかったです。

三年間活動を続けてこれたのは、私の意思を尊重しつつ指導してくださった井上先生や支えてくれた家族、ともに真剣に部活動に取り組んだ部員の存在があったからです。本当にありがとうございました。



美術工芸部門優秀賞

美術部 二年 福山 詩乃

私は、「猜疑」という作品で愛媛県高等学校総合文化祭の優秀賞をいただきました。この作品で一番苦労したところは、人物と背景のバランスです。背景が現実のものではないため、空間を作ったり、空気感をつくるなど、試行錯誤の末、作品を仕上げることができました。また、この作品は人物も背景も紫色をベースにしています。慣れない色の感覚に戸惑

美術工芸部門優秀賞

美術部 二年 福岡 香鈴

十一月に開催された愛媛県高等学校総合文化祭で、優秀賞をいただきました。高文祭では、他の人の作品を観ることができ、とてもよい経験をすることができたと思います。この作品は、私の友人を題材にして描きました。題名にもなっているように、この女の子の顔立ちには美しく華やかさがあります。今回意識したところは、華やかな顔立ちを強調させるため、背景はシンプルにするということです。そのため、大きく広がっている空や海を描きました。



また、この絵でこだわったことは、質感です。肌は指でこするなどをして柔らかさを出し、ハイライトでツヤを出しました。また、帽子は毛糸の感じを出すために、細部までこだわって描きました。今回、多くの人の支えによって、このような大きな賞をいただくことができたことに本当に感謝しています。これから自分の目標に向かって日々頑張っていきたいです。



うこともありましたが、先生のアドバイスのおかげで難しい紫色をうまく馴染ませることができました。さらに、友人から得た意見を参考にすることで作品をよりよいものに仕上げることができました。今後感謝の気持ちを忘れずに、作品制作に励みたいと思います。

文芸部門優秀賞

文芸 新部 一年 古川 颯汰

今回、愛媛県高等学校総合文化祭で優秀賞をいただき非常にうれしく思っています。また、それと同時に来年度開催される全国総文祭への想いが日に日に強くなっています。

今回、賞をいただいた小説「サンライト」は自分と主人公を重ね合わせながら執筆した作品です。性格や思想を自分に似せ、もし自身がこのような体験をしたらどのような言葉を発し、行動するのかを考えながら書き進めていきました。苦労した点は多くありました。苦

「eGS」に参加して

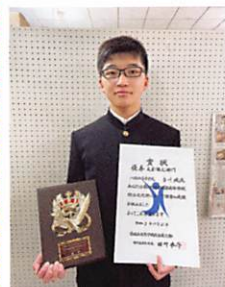
三年 今泉 壮太

愛媛大学グローバルサイエンスキャンパス(eGS)とは、愛媛大学が次世代の科学技術人材の育成のために、学習や課題研究の機会を提供するプログラムのことです。私は一年次に一回愛媛大学に通い、講義やグループディスカッション、実験を行いました。二年次には「プロテオロドプシンの色の制御に関するアミノ酸残基の特定」というテーマで、約一年間、PCR法などによる本格的な研究をしました。

学校の審査期間と研究レポートの提出期限が重な



ることもあり、もうやめたかと何度も思いました。また、研究内容の勉強で行き詰まることも多くあり、その度に「こんなの分かんねえよ!!」と友達に嘆いていました。そんな私の嘆きを笑って背中を押してくれた友人や家族のサポートのおかげで、最後までやり遂げることができました。その成果が認められ、奨励賞と全国発表の機会をいただくことができ、私にとって貴重な経験となりました。



物語をどのように発展させていくかという点です。字数制限がある中で納得のいく作品を作ろうとしたときに、あらかじめ考えていた内容では制限を超えてしま

愛媛県大会十五連覇、四大会連続の全国大会出場！

八幡浜の7次産業化に向けて

商業研究部 三年 二宮 昂大

昨年の五月に臨時休業が終わり、コロナによる影響を受けた地元企業を調査するため、八幡浜漁業や地元の養殖業者を訪問しました。調査したところ、市場価格の低下や魚の需要が大幅に減少している問題を抱えていることを知りました。僕たちは八幡浜の養殖業の中心である鯛に着目し、地元の柑橘と鯛を使った鯛めしや和風パスタソースの

商品開発、地域の方々の協力を得て販売活動を行いました。県大会では、昨年度から続けた柑橘や鯛を使った商品開発の取組、農業と漁業の二つの第一次産業、製造・加工の第二次産業、販売・流通の第三次産業を合わせた、「八幡浜流！7次産業化」についての研究発表を行い、愛媛県大会十五連覇を達成することができました。また、リモートで行われた四国大会では優秀賞(二位)を獲得して、全国大会出場を決めることができました。

特に全国大会では、現地で他校の生徒と交流することは叶いませんでしたが、各学校のプレゼン能力の高さに驚きました。コロナ禍で活動が制限された中、できる範囲で活動を行い、仮説や考察をしっかり立てられていて、それぞれの地域への想いや研究内容の素晴らしさを学ぶことができました。

商品価値の低い魚の漁獲量が多いこと、地元養殖業者の方が養殖している「いよかん真鯛」という魚の存在を活動していく中で知り、一年生から活動を続けてきましたが、他の部活動に入っていないは体験できないことが多くあり自分自身が成長できたこと今では実感できます。



県駅伝十五連覇

期待を方に、そして結果へ

陸上競技部 三年 上田 琴葉

十一月六日、私たちは長年受け継がれてきた心のタスキを継ぐことができました。

今年の大会に向けては、例年なら大会が近くなるにつれて減らしていく練習量が増えます。しかし、それは、全国を見据えての監督の調整でした。

本番当日、記録だけを見ると自己ベストを更新した選手は一人もおらず、疲労が溜まった中でのレースになったように思います。しかし、そのような状況の中でも、最後まで

首位を譲らず、全区間で区間賞という最高の形で今大会を終えることができました。そして、これまでの先輩方の伝統を途切らせることなく、十五連覇という快挙を成し遂げることができました。

「過去最強のチーム」先生からは、練習の時から何度も何度も言われていました。しかし、県大会・四国大会を通して、独走になるとスピードが出ないという課題が見つかりました。普段の練習ではレースを引っ張ってくれる人がいます。しかし、駅伝本番になると各個人の単独になることが多いため、自分のリズムを掴めず、思うような

走りができなくなるのが、私たちの欠点であることが分かりました。「欠点を長所に変える」この言葉も先生からよく言われていました。私たちの欠点に気づくことができた、これが今大会の大きな収穫になりました。

今の一・二年生の後輩たちは、競技に対してとてもストイックです。だからこそ、これから大きく成長できる選手ばかりです。来年、そして再来年も十六・十七連覇という偉業を達成できる集団です。私にとってこの三年間はあったという間でした。このチームでよかったと心から思います。たくさんのご声援、ありがとうございました。これからもチーム一丸となって日々精進していきます。



編集後記

二〇二〇年一月よりコロナの毎日、そして第六波。自粛・制限された高校生活。中止・無観客開催に肩を落とす日々。親子で普通の日々の有り難さを痛感させられました。そのような状況で八高生として過ごした日々は、皆の心に深く刻まれ、一生残ることでしょう。

成人し、社会に出た時に、この経験を糧に活躍している、そんな時が来ることを今はただ切に願うばかりです。本号は、このような今だからこそ、皆の様な思いが綴られた特別号です。発行に携わってくださった皆様、本号にありがとうございました。近い将来、今を笑って話せる時が訪れますように。(広報委員会副委員長 増田 優香)